

宮内省記録抜萃一

第十類
三冊
三冊架
八函

号

国立公文書館

分類

排架番号

2 A

33-9

① 1142

1143

左院
藏書

一覽見留

宮内省記録目次寫

内史文庫

宮内省

第 号

○ 太政官御指令

留 明治六年五月七日ヨリ

一册

内史文庫

第 号

○ 要 録

明治六年五月ヨリ十二月迄

一册 返完

第 号

○ 要 録

明治六年癸酉

一册 返完

○ 第 号御用留

自明治三年庚午
至同四年辛未

一册

同 在申之部焼失

○ 御用留

明治六年癸酉五月ヨリ

一册

○正院式左院部察往復自六年四月

○御祭典錄明治七年一月

一冊

○第号正院式部察往復明治六年癸酉

一冊庚子

○第号正院式部察往復明治六年癸酉

一冊同

○正院式部察往復明治七年

一冊十月庚子

○

第号神祇官往来

明治三年庚午
二月ヨリ十二月迄

一冊

三月三〇日迄

○

第号神祇省往復

明治四年辛未
正月ヨリ十二月迄

一冊

三月迄

○

第号外務省往復

明治五年壬申
自正月至十二月

一冊

三月迄

○

第号外務省往復

明治五年
五月至六月

一冊

五月迄

○

外務省往復簿

明治七年

一冊

五月迄

○ 第号大藏省往復

明治六年一月ヨリ
五月三日迄

一冊

返

○ 第号大藏省往復

明治六年五月ヨリ

一冊

返

○ 大藏省往復

自明治六年五月
至明治六年六月

一冊

返

○ 第号兵部省往復留

明治四年辛未
正月ヨリ十二月迄

一冊

返

○ 第号陸軍省往復

明治五年壬申正月ヨリ
十二月迄

一冊

返

○ 第号海軍省往復

明治四年辛未
九月ヨリ十二月迄

一冊

返

○ 第号陸軍省往復

明治六年一月ヨリ
五月廿四日迄

一冊

返

○ 第号陸軍省往復

明治六年五月ヨリ

一冊

返

○ 第号御台艦造船局往復

明治六年一月ヨリ
四月廿五日迄

一冊

返

○ 第号文部省往復

明治六年癸酉五月ヨリ

一冊
又十日
庚

○ 第号教部省往復

明治六年一月ヨリ
四月廿五日迄

燒失ノヨシ一冊

○ 第号教部省往復

明治六年五月ヨリ

一冊
又十日
庚

○ 第号司法省往復

明治六年五月ヨリ

一冊
又十日
庚

○ 第号開拓使往復

明治六年五月ヨリ

一冊
又十日
庚

第号工部省往復 明治四年辛未九月ヨリ
同六年三月迄 一冊 迄完

第号工部省往復 明治六年五月ヨリ 一冊

第号 東京府往復 明治五年壬申
正月ヨリ十月迄 一冊

第号 東京府往復 明治六年五月ヨリ
二本 一冊 庚

第号 府縣往復 東京府 濱田 埼玉
三重 印旛 白川
新川 一冊 庚

第号 東京府往復 明治四年辛未
三月ヨリ
六年四月
ア
ニ 一冊 庚

第号 東京府往復 從
己巳
八月
至
明治六年四月 一冊 庚

第号 京都府往復

明治四年 辛未
正月ヨリ六月マテ

一册 返

第号 京都府往復

明治四年 辛未
七月ヨリ十二月迄

一册 返

第号 京都府往復

附桂宮家令
往復共

明治五年 五月迄
同六年 一月ヨリ
六月迄

一册

第号 京都府往復

明治六年 癸酉六月ヨリ

一册

二府 諸縣往復

明治 自三月
至六月

一册 返

京都 諸縣往復

明治 六年

一册 返

第号 諸縣往復

明治四年 辛未

一册 返

第号 諸縣往復

明治六年 五月ヨリ

一册 返

第号 御布告

明治四年辛未九月ヨリ十一月迄

一册

第号 御布告

明治五年壬申五月ヨリ六月迄

一册 二部

御布告

同七年七月ヨリ十二月迄

焼失

第号 御布告

明治六年一月ヨリ四月迄

一册

第号 御布告

明治六年癸酉四月ヨリ

一册 二部

九

附

第 号 御 布 告 摺 物 綴 込

明治六年一月ヨリ
三月四日迄

一冊

六年癸酉五月八日從調度司置上

布告全書

明治四年辛未從二月二日至三周廿九日

二冊

一綴

布告全書

明治五年辛未正月八日ヨリ五月廿九日迄

五冊

四止

布告全書

同年六月三日ヨリ十月三十日迄

五冊

四止

布告全書

同年五月三日ヨリ九月廿八日迄

三冊

四止

布告全書

明治六年癸酉一月ヨリ至二月廿九日

二冊

四止

布告全書

明治四年辛未正月四日ヨリ二月廿九日

一冊

布告全書

明治六年三月迄

一冊

第三号

一 布令通書

卷二

一冊

一同

卷三

一冊

一同

卷四

一冊

九

冊

卷号

第号 諸省 摺物 綴

明治六年三月五日

一冊

幕号 太政官田 誌

明治五年壬申五月廿五日刊 同廿七日造

一冊

幕号 太政官田 第一号

田

田

第号	諸願伺届留	明治五年壬申	一冊
第号	諸願伺届留	明治七年己未	一冊

第号

御用日記

明治二年己巳四月分
辨事局

一册返

第号

御用日記

明治二年五月一日ヨリ到七月
内廷辨事

一册返

第号

御用日記

明治二年己巳七月八日ヨリ十二月三十一日
宮内省

一册返

第号

御用日記

明治三年庚午正月ヨリ十二月
同上

一册返

御用日記

辛未之部
焼失

第号

御用日記

明治五年壬申正月ヨリ十二月迄
宮内省

一册返

第号 皇后宮職御用日記 明治二年己巳正月ヨリ九月十三日迄 一冊

第号 行啓御用留 追而御用留可己巳九月一日ヨリ組入多量其手庚午十二月迄 一冊

第号

第号 日録 明治二年己巳十月一日ヨリ十二月三十日ニ参ル 一冊

日録 庚午之部焼失

第号 日録 明治四年辛未自正月至六月 一冊

第号 日録 明治四年辛未自七月至十二月 一冊

第号 日録 明治五年壬申正月ヨリ至十二月 一冊

日録 従前一月至未九月 乾

日録 従前十月止 坤

第号 皇后宮職御用日記 明治二年己巳正月ヨリ
 九月十三日迄 一冊
 第号 行啓 御 明治二己巳九月一日ヨリ
 同三年庚午十二月迄 一冊

第号 日録 明治二年己巳十月一日ヨリ十二月三十日ニ至ル 一冊

第号 日録 庚午之部焼失

第号 日録 明治四年辛未自正月至六月 一冊

第号 日録 明治四年辛未自七月至十二月 一冊

第号 日録 明治五年壬申正月ヨリ至十二月 一冊

日録 徳本一月 至元九月 乾

日録 徳本十月止 坤

三
 完

第号

檢印物綴込

明治六年五月ヨリ

一冊

第号

評議檢印濟

明治六年五月ヨリ

一冊

第号

行幸書類

明治四年庚午九月
但此後之部類焼失

一冊

第号

行幸行啓諸達書

明治六年一月ヨリ
四月迄

一冊

第号

行幸行啓諸達書

明治六年五月ヨリ

一冊

第号

九
P

第号 官方省中諸達書留 六年癸酉五月ヨリ 一冊

官方御家祿御借債御令附留 一冊

第号 御用召達書 辛未八月ヨリ
十二月迄 一冊

第号 御用召達書 壬申之部燒失

第号 御用召達書 明治六年癸酉 月ヨリ 一冊

内儀式 一冊

外儀式 一冊

第号

第号 諸拜借物控 明治六年癸酉
五月ヨリ 一冊

第号 改正律書

一冊

九

卷五 皇八日 調度司 目録

幕号 官途 必携

神祇部 城邑部
法制部

一册

幕号 官途 必携

民政部 止

一册

幕号 官途 必携

民政部 中

一册

幕号 官途 必携

民政部 下

一册

幕号 官途 必携

會計部

一册

幕号 官途 必携

兵制部
刑律部

一册

幕号 官途 必携

文書部
儀式部
學術部

一册

第号官途必携

官省部
秩祿部

一册

第号官途必携

服章部

一册

第号官途必携

番城部外事部
雜部

一册

第号同 附録

博覽會

一册

第号同附録

東京府 布令 辛未十月ヨリ
至壬申三月迄

一册

第号同附録

規則褒賞 自辛未十月
至壬申三月
罰責賑恤

一册

第号同附録

布令規則磨賞自辛未正月
至同十一月
罰責賑恤

一册

第号同附録

布令磨賞 自戊辰五月
至己巳十二月

一册

第号同附録

布令規則磨賞 自庚午後二月
至十二月

一册

第号 乳牛一件

明治六年一月ヨリ

一册

第号 出火注進届

六年一月ヨリ四月迄

一册

兩皇后御馬車傾額一件

六年五月ヨリ
和田係ス

一冊

和
院

御寫真一件書類

六年十二月
初田後

一冊

御寫真記

是ハ御教並被進被下等ノ類ス
初田後

一冊

御寫真一件通達帳

六年十一月
是ハ調度課ノ關シキリ
初田後

一冊

第号

御祭典書類

明治六年癸卯五月三十一

一冊

宮内省記録沿革
宮内省
一

藏書
明治四十九年
要録

七月三十日

一卿ハ

天皇廣政ヲ課分シ百揆ヲ紛叙セシムル爲ニ其
委任ヲ受ル宰臣ニシテ總テ部事ノ熙マラサル
ヲ以テ己レ其責ニ任シ縱ヒ失錯アルモ己レ其
譴ヲ受テ

聖明ノ累トナス可ラサル事

但卿ヲ欠トキハ輔其責ニ任ス一キ事

一卿ハ專ラ其部事ヲ総判スル全權ヲ有ス敢テ
他部ノ權ヲ干犯スルコトヲ許サス若事他部ニ

事
涉ル者ハ小事ト雖モ必商議量定ヲ要ス一キ

一 卿部属、官真ヲ選任默涉スル勅任官ハ

上裁ニ出ルト雖モ官其人ヲ得ルハ政事ノ大典

ナルニ由テ

内旨ヲ卿ニ諭シ卿奉諾シテ然ル後之ヲ任ス

其奏任官ハ奏聞ノ上之ヲ任シ判任官、補闕

ハ先任ノ月末ニ開申ス一シ判任ト雖モ真ヲ

増シ新官ヲ置クト並ニ徒以上ノ罪ヲ犯ス者

トハ亦奏請

上旨ヲ取ルヘシ其默罰ニ至テハ司法ノ典ニ備

ハル爰ニ復論セス

一 其省ニテ事例舉行ノ權ハ章程中既ニ任セラ

レシ者ハ一體ニ判行シ奏聞ニ及ハス附過シ

テ季末ニ録上開申ス可シ章程中任セラレサ

ル者及ヒ新創ノ事例ハ細事ト雖モ必奏請ス

ヘシ其更革他部ト相涉ニサル者ハ亦附過開

申スルノ例タル可キ事

石之條ニ御委任被

仰出候事

八月二日

米國農學教師ケプロン外三人内謁見
之手續

一 来ル八月二日第十字参 内可致旨黒田開拓
次官ヨリ書翰ヲ以ケプロン外三人エ可申入
事

一 當日外務省宮内省開拓使檄官眞直無帶劍之
事

一 爲案内 堀開拓 監事 大山 監事之内馬車ヲ以ケプロン旅
館エ出張之事

一 當日途中警衛別手組人數例之通内壹人ケ
ロン書門注進可致事

但一小隊大手豫備兵之事

一 途中警衛ニ別手組ハ大手御門前下馬礼之處
ニテ下馬步行ニテ護送可致事ケプロン外三
人トモ大手御門外橋際ニテ下車之事

一 ケプロン外三人二重橋右之方中切門ニ入ル
外務丞之内ニ出迎案内之事

但此處ニテ別手組解護之事

一 ケプロン吹上紅葉離宮ニ至ル外務卿大輔開

一 拓次官御縁へ出迎引テ着坐之事

一 賜茶菓

内舎人勤之

一 ケプロン参 内之由外務卿ヨリ式部之官真

一 告ク官真言上ス

一 太政官^ニ官真出會

一 出御瀧見離宮

一 出御之旨宮内省官真ヨリ外務卿大輔次官ニ

告ク

一 外務卿次官ケプロン外三人ヲ案内シ瀧見離

宮ニ進ム譯官隨從

一 ケプロン 玉座前ニ進ム外三人其次席ニ和

ル

一 太政大臣ケプロン及外三名ヲ披露ス

一 勅語アリ太政大臣奉テ譯者ニ告ク譯者傳之

ケプロン御請口上アリ

譯者太政大臣傳テ太政大臣之ヲ奏上ス

一 禮畢リ外務卿ケプロンヲ引テ紅葉離宮退キ

休息セシム

一 於紅葉離宮太政大臣ケプロント面語更ニ茶

集ヲ出ス

一ケプロン御宸旌見外務卿大輔次官等誘引シ
外務丞送テ中仕切門ニ至ル

道筋

増上寺方犬門ヨリ愛宕下道リ折シ橋ヲ渡リ三
條公邸前ヨリ霞ヶ關下道リ櫻田御門ヲ入テヨ
ヨリ大手エ

澳地利國貴族トニベ子ル

内謁見手續

英國代理公使アタムス 英國并
官サトウ為案内同参ス

一来ル八月二日第一号参 内可致旨外務卿大

輔ヨリ書翰ヲ以テヒエベ子ル一可申入事

一當日扨リ官負直垂帶劔之事

一為案内本野外務權少丞馬車ヲ以ヒエベ子ル

旅館エ出張之事

一當日途中警衛別子組人負例之通内壹人ヒエ

ベ子ル出門注進可致事 但一小隊大テ豫備兵之事

一途中警衛之別子組者大手御門前下馬礼之處

ニテ下馬歩行ニテ護送可致事

一ヒエベ子ル并代理公使トモ中仕切御門内ニ

テ下車之事

一ヒエニ子ルニ重橋右之方中仕切門ニ入ル外
務丞之内ニ出迎案内之事

但此處ニテ別子組解護之事

一ヒエニ子ル吹上紅葉離宮ニ至ル外務卿大輔
御縁一出迎引テ着坐之事

一賜茶菓

内舎人勤之

一ヒエニ子ル参 内之由外務卿ヨリ式部官真
ニ告ケ官真言上ス

一太政官ニ真出會

一出御瀧見離宮

一出御之旨官内省官真ヨリ外務卿大輔ニ告ク
一外務卿ヒエニ子ルヲ案内之瀧見離宮ニ進ム

譯官隨從

一代理公使ヒエニ子ルヲ誘導シ玉座前ニ進ム

一太政大臣各人之名披露ス

一勅語ヲアムムスニ賜フ御請口上アリ

一勅語ヲヒエニ子ルニ賜フ太政大臣奉リ

譯者ニ告ク譯者傳之ヒエニ子ル御請口上アリ
譯者太政大臣ニ傳フ太政大臣之ヲ奏上ス

一 又有勅語ヒユニ子ル御請口上アリ傳達惣テ
如右

一 禮畢リ外務卿ヒユニ子ルヲ引テ紅葉離宮ニ

退キ休息セシム

一 於紅葉離宮太政大臣ヒユニ子ルト面話更ニ

茶業ヲ出ス

一 七五ニ子ル御庭拝見外務卿大輔誘引シ外務

丞送テ中社切門ニ至ル

道筋

一 三田臺町ヨリ聖坂三田通り赤羽橋ヲ渡リ飯

倉町通西久保天徳寺前ヨリ相良邸ニ突當リ
左ニ回リ御堀端ヨリ虎之御門一入櫻田御門
通り夫ヨリ大手ニ

代理公使
アタムス

パロニテヒユニ子ル

書記官
サトウ

八月三日司局相達候事

衣冠制度被定候適當介議式之外平服之俣

御前祇候被差許候事

辛未八月三日

八月四日 女房工相達候事

自今重服者五旬暇相濟候得者除服出仕被
仰付候間此段可被相心得候事

辛未

八月四日

宮内省

八月十二日 從侍從差出ス

御劍掛

醍醐侍從

北條侍從

高屋侍從

五條次侍從

御書籍掛

高辻侍從

勘子路侍從

嶋次侍從

御服楫

入江次侍従

堀川侍従

富小路侍従

伏原次侍従

石山次侍従

御乘馬楫

米田侍従

高嶋侍従

綾小路次侍従

八月廿二日徳川後一位松平正二位毛刺從三位鳴津從四位ヨリ之申立

章程

東園次侍従

裏松次侍従

高城次侍従

御前正時之三職諸省長官等被為呂齋ニ御語被為 關倉度事

宿女奉選之儀四堂止四知事之女御取立之事 侍從華族士族被任候ニ筋役

宮之儀ニ典侍等侍華族士族之女御取立御采擇之事 華族之妻女

等折ニ 宮中王參上 皇后宮正奉伺御機嫌度事

參賀 天長節等ノ規則ニ被立度事

八月七日政府工伺書左之通

四月十四日句之通回答有之候事

一 離宮其外工下情御見聞旁追々御馬車并御騎馬等ニテ臨時之行李可被為在其節御道筋御差支ニ相成候物ハ取除可申候其他町家之閑店等平日之通相心得可申候處兼テ諸省府縣工御布令有之度事

但自然御通行筋ニツイテ行懸リ御差支出未候節ハ扈從之内ヨリ相制シ差圖可致候間是又御布令有之度事

一 前條外國人^工御布令有之度事

一 前條兼テ御布令有之候上ハ已後

離宮其外工

行李之節ハ其昔當省ヨリ直様東京府工相達シテ數不相懸様致度事

一 臨時

行李御行列別帝之通有之度事

右箇條相伺候也

辛未八月七日

官内省

侍從騎馬 同下同下 丞騎馬 同日侍從日 同日同日
御馬 御馬車 御輔侍從長 典醫騎馬
或馬車
侍從騎馬 同日同日 丞騎馬 同日侍從日 同日同日

九月三日

今朝御馬車 御馬車二 御出陣兵部省 工臨
御省中 諸寮司 御廻覽終 兵部大 輔少 輔御 親兵
少佐以 止御 召通 漢離 宮工 臨
幸煩 之延 遷館 工臨
御更二 少佐等 被為 召有
初語於 食事 堂酒 饌ヲ 賜ヲ 四字 四十 分還 奉

初語

汝等積 辛苦 勞シ 以テ 今日ニ 到ル 所評 譚實 力ヲ 示ス
者全 少汝 等力 服役 工ル 在リ 朕太 少之 ヲ嘉 許ス

上 完

殊ニ方今外交内務日新ノ時ニ當リ邦家ノ盛衰ハ實ニ兵ノ強弱ニ存ス汝ヲ深ク朕カ意ヲ躰シ弥以紀律嚴明衆心一致シ励精尽カセヨ

九月四日

詔書

朕惟フニ風俗ナル者移換以テ時ノ宜シキニ隨ヒ國體ナル者不抜以テ其勢ヲ制ス今衣冠ノ制中古唐制ニ摸倣セシヨリ流テ軟弱ノ風ヲナス朕太ク慨之夫

神州ノ武ヲ以テ治ムルヤ固ヨリ久シ

隊長捧劔 隊付士官ハ 劔ヲ肩ニス

歩兵ハ捧銃 騎兵ハ劔ヲ肩ニス

礮隊

廿一日 日没 二十一發 今日正午百一發

廿二日 日出 二十一發

今日 日没 二十一發

右元大手御門前ニ於テ 祝發

右之通候事

天子親ラ之カ元師ト爲リ衆庶以テ其風ヲ仰ク
神武創業 神功征韓、如キ決テ今日、風姿ニ
アラス豈一日モ軟弱以テ天下ニ示ス可ンヤ
朕今断然其服制ヲ更メ其風俗ヲ一新シ
祖宗以來尚武ノ國體ヲ立ント欲ス汝近臣其レ
朕カ意ヲ體セヨ

天長節記事

記

一番大隊 二番大隊 三番大隊

五番大隊 六番大隊 七番大隊

八番大隊 九番大隊

第二聯隊第一大隊

右和田倉御門南脇堀際ヨリ馬場先日比谷
櫻田半藏御門外迄ノ内ニ順次整列

騎兵隊

右半藏御門外ニ整列ス

- 一帝國帝權之差等
- 一親兵之體裁并歲費
- 一帝王公務之外歲費定額
- 一海陸軍巡視之體裁
- 一帝王貴族交際接見之式
- 一公使謁見之式
- 一內廷殊恩謁見之式
- 一帝王他國巡行鹵簿
- 一國內遊行之鹵簿
- 一太子諸王取扱之等差并入學之式

- 一皇后躰裁并後宮妃婢之負數
- 一帝王學課日用政務之措置
- 一師傳之接過課過侍醫侍臣之撰舉
- 一帝居及後宮之模樣
- 一帝王服飾并常膳之品
- 一大禮遊宴音樂等之式
- 一內廷章程吏負并課目給料
- 右之件 = 取調可被相伺候也

辛未
十月

宮内省

十一月廿日太政官より達書之寫

宮内省

一皇后躰裁并後宮妃婢之負數

一帝王學課日用政務之措置

一師傳之接過侍醫侍臣之撰舉

一帝居及後宮之模様

一帝王服飾并常膳之品

一大禮遊宴音樂等之式

一內廷章程吏負并課目給料

右之件ニ取調可被相伺候也

辛未十月

宮内省

十一月廿日太政官ヨリ達書之寫

宮内省

其省中内豎ヲ被置候事

但可為九等月給之儀者本等三分ノ一ヲ可

減事

辛未十月廿日

太政官

右同斷

宮内省

宮中勤番之輩自今其省九等出仕可申付事

辛未十月廿日

太政官

一 隔日兩人宛交番宿直之事

一 九字出仕翌朝九字退出之事

一 上ノ御動止并御用向等他人者煮ヨリ親戚ト

雖漏洩致ス間敷事

一 御用之儀大切ニ相心得疎漏之取扱致ス間敷

事

一 遊戯ニ沈間敷事

辛未

十一月廿五日

右之通内豎工御達候事

十二月廿二日

宮内省章程

一 宮中一切ノ諸務ヲ裁判スル事

但大事ハ正院ニ申出決ヲ採ル事

一 後官職務ノ當否ヲ審査スル事

皇太后宮

皇后宮右准シ

一 離宮其他御遊

行奉行啓儀衛ヲ整ノフル事

一 侍従之

初候者人辨順還其事件ニ應ニ伺定ムルノ事
一諸官真并華族

天機伺参賀諸御禮等奏聞并符謁ノ式ヲ整ル
事

一國璽御璽并御國旗等、出納ヲ監スル事

一内膳司

御膳賢所、神饌及臣下、賜饌等、事ヲ掌ル

一内匠司

官中、管膳其他器械総テ工作、事ヲ掌ル

一調度司

服御ノ調進其他官中、雜具一切之ヲ掌ル

十二月廿三日

元三日市縣士族

小口牧右衛門姪

婦

雜仕申付候事

一朝六ツ半時潛門相開キ夕七ツ半時ノ切之事

但人切之節ハ御裏寄録立會之事

一宮内省官真御用之外男子入込嚴禁之事

但不得止事件ニテ手人等入込之節ハ御典
寄録ヨリ證書有之候事

一女中向者勿論下女等ニテ御典寄録ヨリ達無
之候ハ、出入不相成候事

一夜六ツ半時頃局ニ火之元點檢之事
但仕人直丁兩人之事

一持出物之儀ハ精々檢查之上相通シ可申事

同日

一女官部屋向常用道具類自今不被下候事

辛未
十二月

宮内省

一當主

右暮シ方総テ家祿ニテ取賄之事

一子孫官

嫡官 十五歳迄五十石
十五歳以上百五十石

但十五歳未満ト虫トモ元服ノ上ハ十五歳以
上同様尤在職中ハ不被下候事

庶官 十五歳迄三十石
十五歳以上百石

但他家相續并在職中ハ不被下候事

女官 十五歳迄三十石
十五歳以上七十石

但縁升後ハ不被下候事

一五十歳以上隠居勝手之事
一隠居宮

右三百石

但後室ニ於テハ三分、一終身被下嫡宮ノ
後室モ準之候事

右之通被定從前借財ハ大藏省ニテ引受自今暮
方諸勘定年々同省一届出候様可致事

辛未五月

右有細川宮伏見宮八守降

御用番

宮内省記録沿革 二

宮内省

藏御用留

明治自庚午
至辛未

伊太利國公使今般歸國ニ付參 内并同
刻英國水師提督參 内手續

一 来ル十五日第一字公使參 内可有之様前以
外務卿大輔ヨリ御書簡可被差遣事

一 當日關係、官真正服着用、事

但卿大輔衣冠着用、事

一 當日途中警衛別手組、事

但一小隊大手一豫備、事

一 公使振館 三田聖坂上 爲前導少丞、内一人可

功運寺

相越事

一江々警衛ハ銃隊ニテ固之

道筋

三田切違寺ヨリ三田通り赤羽橋ヲ渡リ飯倉町
通西ノ久保天徳寺前ヨリ相良邸ノ突當リ左リ
一曲リ御堀端ヨリ虎ノ御門一入リ櫻田御門通
リ夫ヨリ大手ハ

歸途

大手ヨリ馬場先御門鍛冶橋御門ヲ出五郎兵衛
町疊町右一京橋ヲ渡リ銀座町通り二丁目三丁

目ノ間ヨリ三十間堀通り木挽橋ヲ渡リ右一川
端通り元奥平邸前ヨリ濱延遼館一

一大手御門中仕切御門二重橋御門等、警衛公
使通行ノ節禮ヲナス、省卿参内ノ節、如

シ

一大手御門外ニテ公使途中警衛別手組解護ス
但大手豫備ノ一小隊棒銃ノ式ヲ行フ

一公使中仕切御門内ニテ下車ノ事
但前導ノ少丞モ同様ノ事

一公使御玄關前扉重門ヲ入ル此處ハ外務卿大

輔等出迎公使借ヲ上リ殿上ノ間一著坐ノ事
但賜茶菓給仕勤之

一大納言參議出會

一次ニ右大臣出會

一右大臣事由ヲ奏ス

一次出御

一樂起ル

一外務卿公使ヲ案内シ大廣間一進ム

但大譯官隨從

一樂止

訛 倚恐倚

一公使

王坐前一進ニ行禮

一御倚子ニ著御ノ儘公使ノ禮ヲ被爲受

一公使名披露大譯官述右大臣言上ス

一公使捧國書國王ノ命ヲ言上ス大譯官之ヲ述

右大臣言上ス

一此時立御一應國書

御覽ノ上御坐側ニ置セラレ

御倚子ニ著御ノ事

一有勅語

一右大臣傳 初語大譯官公使ニ告

一公使御請口上アリ大譯官之ヲ述右大臣言上

フ

一禮畢リ公使退出

一公使殿上ノ間ニ退リ外務卿案内准初

但賜茶

一次大納言參議出會如初

一公使退出ノ節外務卿大輔塀重門外ニ送ル其

他如昇 殿之節

一英國水師提督始延遼館ニ相揃候事

一途中警衛別手組ノ事

一延遼館ニ爲前導少丞ノ内一人可相越事

一辻々警衛ハ銃隊ニテ固之

道筋

延遼館ヨリ元奥平邸前ヨリ 伊太利公使退出ヨリ道順ノ通

歸途同上

其餘次第伊太利公使ノ通り

但國書ノ手續無之伊太利公使退出引續并

天顏

此人多朝ル

大奉幣

神祇官

大副 御幣物ヲ掌ル 大少史、内一人 史生一人

官掌 使部

太政官

納言 宣命 辨一人 史 主記 官掌

使部

太祭

神祇官

大副 大少祐、内一人

史、内一人 史生 官掌 使部

太政官

納言 辨 史 主記 官掌 使部

神樂東遊等、内

官内

用度

土木

驛遍

中奉幣

神祇官

大祐又權

大少史内一人

史生

官掌 使部

太政官

参議

史

主記

官掌

使部

中祭

中奉幣外

神樂東遊等内

用度土木司等参向

小奉幣

神祇官

權大祐又少祐

少史

史生

官掌

使部

太政官

大辨

少史

主記

官掌

使部

小祭

小奉幣外

用度土木司等参向

亦削^ル之^レ左^レ之分西京ニテ御布告ニ相成候旨大藏省ニテ

寫取當省為心得際込置

一京都出張大藏省被廢候ニ付テハ左之件々出張出納司用度司ニテ御^取斗可致旨相達可申事

一諸神社御祭典臨時祭始下行米并諸調進物下行米等

一伊勢加茂北野白峯石清水春日等其外參向之御手當旅費等

一諸社寺被下米等

一 九門内始社寺營繕等

右之件之定額中ニ候一 共御改革ノ筋有之候ニ
并自今本省伺之上渡方可致候但營膳ニヲイテ
ハ即時難止品々可有之間百兩以下之分ハ是迄
之通可取斗事

一 官錄録旅費等定額中之分ハ是迄之通 一切

本省伺之上可取斗事

一 諸官省筆帛墨等日用之分ハ是迄之通用度司
ニヲイテ可相渡事

二月

太政官

庚午十一月十七日被仰出候事

宮内省

御厩局中馬醫師被置候事

但少取者次席之事

庚午十一月

太政官

十二月三日

天智天皇一千二百年御祭典次第

巳刻神殿御装束奉仕

次神祇官辨官着坐

次開扉

神樂歌

次祝詞 伯奏之

次供神饌

神樂歌

次使進符 捧玉串

次使退坐

次伯以下符禮

次撤神饌

神樂歌

次閉扉

神樂歌

次各退出

畢

天皇御祭典准之

一侍醫權又侍醫者宿直被免候間日々一人ツ
・白言參

朝

御平服并診之事

一侍醫權少侍醫之内一人御藥室懸り一人ツ

・日々宿直之事

一皇后宮御平日者侍醫兩人ツ、隔日并診之事

一遠方

行幸之節者供奉人躰別段被 仰甘御郭内

行幸之節者當直侍醫供奉之事

辛未十一月

本文之儀廿七日侍醫被達候事

一抑馬車之

皇國ニ開行スルハ總昨今年ヨリノ事ニシテ
則馬車ノ創業ナリ就中御厩馬車ノ儀者自今
諸向之規模トモ可相成候一共御者ヲ始メ車
副飼丁ニ至ル迄粗暴之振舞無之様平日相心
得可申事

但車副其外トモ喧嘩口論ハ不及申同部

屋中之者其交リ厚心掛ケ御乗馬掛御馬
車掛リト分課相成候一其其原由者一局
之御厩ナレハ旋ニ於テ相^替候儀ハ無之
聊隔意無之様ハ勿論也此旨體ヲ認^レキ心
得違ヒ無之様世話役之者ヨリ申聞相互
ニ可爲親睦様^註意可致且飼葉屋其外御
用達等之許ニ至リ聊無心ケ間敷義申出
候者有之時者嚴ニ御咎可有之候間惣テ
心得違無之様常々説諭可有之候事
右之通此度相守可申者也

辛未九月

御厩

馬車懸

規則

一毎朝第五字厩之掃除致シ候上^行入致シ水ヲ
與一直ニ飼ヲ附可申事

但翌日

行幸并諸省一臨

御等被仰出候節者

御出門之字間ニ應ニ飼之附方可有斟^取事

一第十二字水ヲ與一昼飼ヲ附可申事
一第二字ヨリ第三字ニ至ル迄一字間御馬不殘
運動之事

但斗市街一出サス御廐内限リ相廻リ可
申尤馬車掛附屬之者壹名附添惣テ往來
筋迷惑不致様肝要ノ事

一第五字手入之事

但手入後水ヲ與一飼ヲ相附可申夜分ノ
飼料ハ別テ草藁等之手當十分相充可申
事

一飼番之者者夜分徹夜世詔可致候事

但其翌日ニ至リ半日休息セシムル事

右之條々規則相立候上ハ各其役ヲ奉準_原序相守
屹度勉強可致候モノ也

辛未九月

御廐

馬車懸

御馬車之馭者一示ス

一御馬車來廻シ之節御紋之旗章ヲ建候儀者決
テ權威ヲ示スニアラヌ御馬車ニ限り粗暴之
振舞無之ヲ衆人之耳目ニ觸シム人々安堵致
シ敢テ恐懼不致様之趣意ナレハ自然道筋ニ
テ妨ニ相來物等有之節ハ共ニ手傳取除或ハ
老人子共之行掛リ候ハ、猶更氣付致シ手ヲ
引又者引提^提我無之様深切ニ取斗可申事
但シ飼丁等市中一罷出候節隈リナル振
舞有之哉ニモ相聞不^出之事ニ候自今漏

聞ノ節ハ嚴ニ御咎可有之候也

辛未十月

馬車懸

一在官之面々私宅ニヨイテ御用向取扱候儀決
テ無用之事

一御厩中一子馬飼置候儀者勿論他ヨリ預リ馬
等モ決テ不相成候事

但シ無撥筋合ヲ以テ頼來候節ハ本省一
伺之上是非ニ可及候事

一音信贈答之儀者禮節不可瀆儀ニ候得共品ヨリ候テハ賄賂之沙汰ニモ相當リ候間断然無用之事

但同寮之交接者此限ニアラス

一総テ

行幸被 仰出候節ハ期限ヨリ時規三十分前ヨリ御場所一出揃可申萬一期限ニ相後レ候節ハ屹ト御咎可有之事

掟

一部屋内ニ於テ酒宴ケ間敷儀無用之事

一明友或ハ遊人杯ト唱一無用之人負^差立^差置候儀不相成候事

一御馬車乘廻シ之節車副并飼丁等市街ニテ權威ケ間敷儀不相成ハ勿論ニ候得共自然右様之振舞有之儀相聞候節ハ屹度嚴科ニ可申^例候事

右之條々堅相守可申モノ也

辛未十月

馬車掟

来廿八日ヨリ御休會

壬午正月十七日ヨリ御會始

右之通御治定候間此段相達候也

辛未十二月廿三日

宮内省

從五位加藤弘之殿

正六位平田延胤殿

從七位本居豊款殿

元田永孚殿

宮内省記録沿革三

宮内省

藏神祇省

明治四年辛未至正月

省往復

記

一太刀

壹振

箱入

神主

壹

箱入

御弓袋

御矢袋

天羽々矢

壹手

袋付

丸木弓

壹張

袋付

鈿

壹

佐奈伎

麻

木綿

神琴

壹

神鏡

壹

箱入

日月鉾

貳本

但旗鈴共

御巫鉾

壹本

但佐奈伎共

柳管

三ツ

警蹕鈴

壹

箱入

御糸結臺

貳

並御疊共

貳

幣串

三本ツ

貳組

但貳本不豆

幔

四張

御巫裝束 上下

壹具

外 = 一具

御衣管

三

但覆共

右

一皇靈日供之儀日々大掌典以下奉仕月々

御正辰御祭典ニ者大少輔ヨ内祝詞ヲ奏シ神

饌大掌典等奉仕ニ来候處 御遷坐後神饌之

儀ハ當分 神殿御造立迄宮内省一被付度奉

仕此儀ハ日々大掌典以下出勤仕候ニ付右詰

所御差圖有之度 御遷座翌日ヨリ差當候儀

ニ付此旨專一ニ相伺候也

辛未九月廿四日

門脇神祇少輔

福羽神祇大輔

正院 御中

伺之通尤宮内省一モ相達置候間

可申談事

皇靈御正辰御祭典神饌別紙之通ニ有之候且又

右神饌調理枋等内膳司官負一為傳達明八日當

省官負一人可差出旨致承知候依テ第十時壹人

可差出候此及御答候也

辛未十月七日

神祇省

宮内省

御中

御正辰神饌品数

一洗米

一御酒

一奠

一海菜

一野菜

一時菓

以上六品

當省三等出仕三條西季知天長節御祝酒被下方之儀

神宮例幣参向中ニ付代料ヲ以被下候事ニ存候右者勅任官之事ニ付御省ヨリ御渡シニ相成候哉又者當省ヨリ大藏省一掛合候儀ニ候哉此段及御問合候否御答有之度此段申入候也

辛未十一月十七日

神祇省

宮内省

御中

御省三等出仕三條西季知天長節御祝酒被下方
之儀、分云々御申越之趣致承知候右、御用出張
中、リト雖モ當日参賀無之向一者被下無之事
候此段及御回答候也

辛未 十月十七日

宮内省

神祇省

御中

別紙采女役配書御回申入候間役當之名前夫
認入御報可給候仍申入候也

辛未 十月十四日

神祇省

宮内省 御中

陪膳采女一人楊枝宮ヲ執ル

鴨脚克子

後取采女一人御中宮ヲ執ル

壬生廣子

采女一人神竇薦ヲ執ル

山口益子

同一人御食薦ヲ執ル

戸田晴子

同一人御箸宮ヲ執ル

堀内素子

同一人平手篋ヲ執ル

虫麻良子

同一人御飯宮ヲ執ル

世續重子

同一人生魚宮ヲ執ル

入谷福子

同一人于魚宮ヲ執ル

古谷建子

同一人菓子宮ヲ執ル

岡本高子

采女役配書夫々役當名前認入云々之件御別紙
共正ニ致落手候也

辛未
十一月十四日

神祇省

宮内省

御中

兩國神物本省ヨリ御繰込相成候儀者次第書之
通第一字ニ候間
行幸御道筋ニ差障無之候様致度此段豫テ御折
合申置候也

辛未十一月十七日

宮内省
御中

神祇省

大嘗祭悠紀主基兩國獻物當省奏判任官一分賜候
ニ付文画右^五御回相成正ニ落手候也

辛未十一月廿一日

神祇省

宮内省
御中

鎮魂祭参役交名

萬里小路宮内大輔

吉井宮内少輔

長谷宮内少丞

世古宮内少丞

暗燭 千賀宮内中録

同 町田宮内權中録

御玉緒 辛櫃早 仕人 徳岡 久保

同 河野 弘通

同 浅山 永信

同 藤田 房教

塀重門参衛 平本 政清

同 山科 正通

同 河合 義耀

同 上田 宣盛

庭燎 直丁 六人

八神備進

四鯉

二饒 五寸重

十酒瓶子 五合入

八水

中央

六若布

一 飯 高盛

五 菜

三 鯛

七 塩

九 酒 瓶子

大直日神備進

六 鮓

十四 酒 瓶子
十二 水

四 鴨

十 昆布

二 餅 五寸

八 于 柿

中央

七 大 根

一 飯 高盛

九 荒 布

三 雉子

十一 塩

是迄

賢所日供ヲ始メ其余御省ヨリ御調進相成候神
饌品目器械類等巨細御申越有之度此段及御掛
合候也

辛未十二月二日

神祇省

宮内省

御中

一 飯 高盛

五 菜

三 鯛

七 塩

九 酒 瓶子

大直日神備進

六 鮓

十四 酒 瓶子
十二 木

四 鴨

十 昆 布

二 餅 五寸

八 子 柿

中央

七 大 根

一 飯 高盛

九 荒 布

三 雉 子

十一 塩

五 鮓

十三 酒 瓶子

明朝

大嘗宮為并見外國人何字ヨリ罷出候哉當省ニ
ヨイテ至急承知致シ度候間刻限之儀奉即答可
賜此旨御懸合及候也

二 餅 五寸

十一月廿九日

神祇省

御中

大嘗宮

内省

大嘗宮

御中

大嘗宮

内省

御中

大嘗宮

大嘗宮

御中

大嘗宮

内省

御中

大嘗宮

大嘗宮

御中

大嘗宮

内省

御中

大嘗宮

是道

賢所日供ヲ始其余當省ヨリ調進相成候神饌品
目器械類等旨細可申御懸合之趣致承知則神饌
之部壹冊器械之部壹冊取調御回俾入候条御落
系有茶度候也

辛未十二月八日

大嘗宮儀并具神祇省御中

御膳

五種

十三箇條子

賢所月供神饌色目

羅酒塩

壹

御飯

貳

御箸一双 居耳土器

酢醬

窪器物

生物

鮎兒鱈

海月

鮎

鴈賊

参

御汁鮑

四

保夜

鯛醬

鯛

堅魚

干物
鮭

鮪

梓梳

柿

五

鮫

熬海胤

搗栗

椿餅

六

右

一 窪器物

鮎兒鱈 無時ハ代鱈漬^ク鮎

海月 無時ハ代鮎

御汁鮑^ヲ用^ユ 無時ハ和布

保夜 搥貝^ヲ用^ユ

鯛醬 無時ハ輕醬^ヲ用^ユ

一 生物

鮓 無時ハ鱈子鱈

鯛 無時ハ鱈鯨鯉鮪^鮪

鰩 無時ハ鰩蛸鮫

堅魚 無時ハ生^フシ^シ類

一 干物

鮪 無時ハ鮪干鱈

鮭 無時ハ鱈鱈子之類

熬海胤 無時ハ金鉾鮪鱈

鮫 無時ハ干貝蒸貝

一 菓子

搗栗 無時ハ生栗葡萄

完

棉

無時、子柿、子棗

粹梳

研子、客柿、金柿、梨子、橘、四季、蒟、代用

椿餅

或粉餅、ト餅

同折櫃物貳拾合

鯛

堅魚

焉賊

鱈

昆布

和布

紫菜

海菜

作菓子小豆餅

栗

柑子

栢

洗米六合

菊紙貳合

右

魚類打櫃四合

一鯛

鮭

鱒

鯽

阿米魚

一鰯

鱈

鱈

一堅魚

代目黒

鯖

釜餅

鱈鱈

一鱈

鮪

鮪

鱈魚

一焉賊

代鰯

一鱈

代子貝、蒸貝、熬海鼠

精進四合

一昆布

和布

荒布

海苔

海松

海毛朝都久

作菓子小豆餅

大豆粉餅

一柿 干柿

桃

林檎

梨

杏 棗

一橘 蒲萄

密柑

金柑

柑

枇杷 李

一栢 栗

揭栗

干棗

右奠精菓等時之養ニヲ以大畧如右尤 月供
并臨時御神樂等調備

但三皇靈每朝朔前同上

每朝日供

神供

六ツ

神酒

壹升

生魚類

在モノ貳尾
切身貳ツ

干物

貳枚

但三

朔日十一日十六日廿一日廿八日 = 八

小戴拾六宛

外三精物十宛貳種

取六人

ト一ハ朔日精
物ナレハ十一
日ニハ菓子ト
相成ル

菓子十宛貳種

十日 二十日 二十九日

菓子昆布 十本宛

皇靈日供前真数半方通り調備

魚類

鯛

鯉

鱈付

鰯

鰻

金線真鮎

鱈

鱧

車海老

鱈子 赤貝

沖津 蛤

鱈

小鯛

子物

子 沖津

飾

鱈

精進物

百合根

里芋

長芋

蕪

茄子

笋

大角豆

獨活

葡萄

梨

柿

林檎

密柑

柑子

桃

菓子

格シ

餅

狸シ餅

鶉餅

鶴子餅

餅

伊賀餅

大福餅

黄金餅

螺貝餅

野良餅

凍粉餅

蒸餅

唐士餅

三色餅饅頭梅衣餅

赤糸餅

年中別御供

一 正月朔日ヨリ同十五日迄菱葩伊勢海老

一 正月朔日ヨリ同三日迄

塩小鯛塩鱒塩貝長芋密柑數、子ホナガ、父
イネ玄米中汲酒榊葉鬼杉原榎栗藜海胤串柿

一 正月朔日月之餅

四方鏡赤白但十二月廿七日供進

一 正月十六日ヨリ十二月晦日迄平日每日供ハ

前記毎朝日供之茶下ニ見エ

一 正月七日薺

一 三月三日赤鳥、子 桃花柳枝

一 五月五日粽 艾葉菖蒲

一 六月十六日鶉餅小戴近時小鯛鱧子
十二月竈諾車海老元素麵

一 七月七日素麵長棍、葉

一 八月朔日藤、花餅

一 九月九日赤鳥、子菊花黃白赤飯

一 十月亥、日歌賃菊花黃白但二、亥楓

一 三月三日五月五日七月七日九月九日八月日供

关別御日供之外魚貳尾

一 十二月十三日未正月御手始數、子コマ

太著

一節分菱葩數、子伊勢海老燗大豆壹ツク三拾羽

一正五九月 御参拜之日鮮鯛貳尾

右

右

皇靈御正辰 御壹前三付

洗米

神酒 瓶子八

生魚

海藻

野菜

時菓

魚類

鯛 鯉 鯽

海藻

海苔 昆布 若布 荒布

野菜

午房 大根 人参 蕪

笋 獨活 葉山葵 菜

時菓

柿

梨

金柑

蜜柑

干柿

鎮魂祭 二升

八神神供

御飯

餅

鯛

鯉

菜

若布

塩

水

神酒

瓶子二入

大直日神神供

御飯

餅

雉子

鴨

鯿

鱈

大根

干柿

荒布

昆布

塩

水

神酒

瓶子二入

以上

右

當時内膳司調進

辛未十二月

賢所神饌其外諸器械

正月朔日

一御棚

壹

一角櫃

貳

一土器

神酒神饌
御燈

之料

一神ノ折敷

三

一イカキ竹

大貳
小貳

一日供之小辛櫃

壹

一同舟

三

一齊之口臺

壹

一手桶

三

一手水丸物

壹對

一敬米之折

三

一神酒桶

壹

一錫

一御供米紙

一鬼杉原

正月日木造始

一油臺

貳

十二月 御神樂

一御幣 五色紙

一御柵

貳

一角櫃

四

一柵日蔭蔓

年中毎日

一日供、折

一御供米紙

一土器

一錫

右之外御神樂之節並每朝神饌之具

一折櫃

貳拾

一菊紙

貳

九

九

節今

一 篇杖

一 丁未

月次一日十六日廿一日

一 御麻 三

奉

賢所御神樂。廿云。御節杖之趣。段承。初候。別

御

辛未 三月廿一日

御

公同。御麻。甲。越。有。以。取。名。為。取。以。御。節。合。取。為。

御。節。杖。之。趣。段。承。初。候。別。

奉

来ル廿三日

賢所御神樂ニ付昨年於御省御商量ニ相成候廉
之巨細御申越有之度依此段及御裁合候也

辛未
十二月九日

神祇省

宮内省

御中

来ル廿三日

賢所御神樂ニ付云々御申越之趣致承知候則別
紙壹数^本御廻申進候条御落子有之度候也

辛未
十二月十日

宮内省

神祇省御中

賢所御神樂手續

庚午十二月行ル

已刻神殿御装束奉仕

官内丞録並用度課
官等役之

次供御幣物

幣 柵 角 櫃

未刻掌侍刀自外陣＝着

次官内丞内膳正等昇神殿御外陣之外便宜之所

＝着座

次辛櫃二合昇上神殿

内膳令吏
昇之

此間内膳佑以下有手水之儀

次供神饌

内膳佑令吏ヨリ刀自掌侍工
相傳奉仕

次撤神饌

次官内丞以下退座

次掌侍刀自退去

畢

申刻御神樂御装束奉仕

次敷設御座

侍從役之

酉刻庭燎

用度司官人役之但樂舎幔、外松明差
熾灯ハ官内省商量

次伶人着坐

次官内丞柵枝ヲ人長＝授リ

次神祇伯進于御内陣

次

出御

次御拜

此間有御鈴之儀乃自奉之御鈴訖于伶人奏
神樂歌如例

次中八各退坐

此間各賜歡杯

次各着坐

次奏神樂歌

次神樂畢テ

入御 或中間 入御

次人長南階代ヨリ昇神枝ヲ官内巫ニ進ム

次官内巫進于之辨納之御内儀

次各退座

畢

来ル廿五日

孝明天皇御祭典神饌於御省調進有之度昨年也
色目御廻シ申候間早刻無遅々調進候様其筋一
御込有之度此段及御懸合候也

辛未 十二月十四日

神祇省

宫内省御中

朝第六字

飯 酒 餅 簀 鮓 牛房 荒布 塩 水

昼第十字

飯

酒

餅

雞子

鴈

鯛

鯉

雲州密柑

大根

若布

昆布

塩

水

夕第三字

飯

酒

餅

沖津鯛

鱸

菜

三薦海苔

塩

水

右何レモ調味

今般御車寄始都テ沓之俣昇降被差許候ニ甘テ

賢所神殿向者憚リ候所玄關向斗リ相用サセ候

テ可然哉御省御見込之處兼知致度何_{依テ}此段及

御問合候否至急御回答有之度候也

辛未
十二月十七日

宮内省

神祇省

御中

今般御車寄始、都テ沓之マ、昇降被差許候ニ

甘テハ

賢所神殿向ハ憚リ候所玄關向斗相用サセ可然
哉御尋越之趣承知致候當省ニ於テ別段異存無
之候間御打合ニテ可然ト存候仍テ御報申入候

也

辛未
十二月十九日

神祇省

表ル廿五日

孝明天皇御正辰御祭典於

賢所被為行次第以下別紙之通取調及御打合候

早々御評決有之度候事

一御幣物是迄官内省ニ於テ調進ノ處以來於當

省可及調進事

一令人曉第五時無遅々參集候様御達之事

一夜分酒飯賜リ候様御取斗之事

但當省人負追而取調可申入候事

一諸官負麿杵之間誥罪役官華族有位士族等參

拜之儀別紙段之通御達有之度候事

一當省人負曉第四字揃

賢所、參集其他御用物運送等モ有之候間廿

四日ヨリ廿六日曉迄大手其、外御門ニ當省

御印鑑已ニテ無指支通行、儀警衛、輩一御

達有之候事

右之件ニ及御打合候也

辛未
十二月十二日

神祇省

式部寮

御中

来ル廿五日

孝明天皇御祭典於

賢所被為行候ニ并諸官負齋香之間誥罪職官華族有位士族等参拜可致事

但奏任已上宮華族等朝第八字ヨリ昼第十字マテ判任有位士族等第十二字後ヨリ第四字迄事

一参拜道筋大手御手御門内二重橋手前ヨリ西一堀重門ヲ入右一山里御門ヲ入喰透御門ヨリ順路

神前一尤案内ノ者被差置候事

孝明天皇御祭典

朝次第

曉第六字神殿御装束ヲ奉仕ス

次神祇省式部寮宮内省着坐

次開扉

神樂歌ヲ奏ス

次神饌ヲ供ス

神樂歌ヲ奏ス

次祝詞 神社大輔之ヲ奏ス

次祝饌ヲ撤ス

神樂歌ヲ奏ス

次閉扉

神樂歌ヲ奏ス

次各退坐

畫次第

第十一字神祇省式部寮宮内省着坐

次太政官諸省地方官勅任以上着坐

次便殿 出御太政大臣参議議長諸省卿便殿南

簀子ニ候ス

次太政大臣神殿ニ昇リ外陣ノ東南ニ着シ神祇

輔同東北ノ簀子ニ着シ

次開扉

神樂歌ヲ奏ス

次神饌及御幣物ヲ供ス 御手代奉仕大
掌典以下傳供

神樂歌ヲ奏ス

次内陣 着御参議議長諸省卿進テ神殿ニ昇ル

次太政大臣祝詞ヲ奏ス

次御拜御玉串ヲ奉玉フ
御拜畢ラントスル間
列侍、諸長官先本坐

ニ復ス

次便殿 還御

次大臣以下拜禮

次御幣物及神饌ヲ撤ス

神樂歌ヲ奏ス

次閉扉

神樂歌ヲ奏ス

次入御

次神祇省宮内省奏任以下拜禮

次各退出

第十二字

中宮御拜典侍以下女官随従ス

御拜中神祇省式部寮宮内省着坐

又次第

第六字御燈ヲ供ス

次 疾燎

次 神祇省式部寮着坐

次 便殿 出御

次 開扉

神樂歌ヲ奏ス

次 神饌ヲ供ス

神樂歌ヲ奏ス

次 御神樂

次 神饌ヲ撤ス

神樂歌ヲ奏ス

次 閉扉

神樂歌ヲ奏ス

次 各退出

以上

朝神饌

飯

酒

餅

海魚

川魚

野菜

海菜

塩

水

晝神饌

飯

酒

餅

野鳥

鳩或ハ山鳥

水鳥

海魚

川魚

時菓

野菜

海菜

塩

水

夕神饌

飯

酒

餅

海魚

川魚

野菜

海菜

塩

水

御幣物

紅白絹

各五匹

以上

賢所年中神饌

正月一日

一飯 一餅 一酒 一水 一塩 一海魚

一川魚一貝 一山鳥一水鳥一海菜一野菜

一時菓

二日三日七日十五日

如一日

例月朔 御神樂等

一飯 一海魚 一川魚 一貝 一山鳥

一水鳥 一海菜 一野菜 一時菓 一造菓子

一塩 一水 一酒

三月三日 五月五日 七月七日 九月九日

十二月晦 立春等

一飯 一酒 一水 一塩 一海魚

一川魚 一鳥 一海菜 一野菜 一時菓

常日御供

一飯 一魚 川魚或ハ 一海菜 或ハ 野菜

一酒 一塩

賢所年中

神饌従前調達スル寫

六合

日供

朔日 十一日 廿一日

一魚味三種 于物壹種 小戴

如一日

例月朔 御神樂等

一飯 一海魚 一川魚 一貝 一山鳥

一水鳥 一海菜 一野菜 一時菓 一造菓子

一塩 一水 一酒

平月三十一日 五月五日 二月二日 九月九日
中野并 宿願堂 八ノ山 眞

覺河年中

一齋 一齋

一齋 一魚 齋川魚 齋魚 齋菜 齋菜 齋菜 齋菜

常日齋禁

每月朔日并御神樂神饌

折敷高坏六本

一御飯 二酒塩 三齋器物四種
齋汁 蛇

四魚味八種 六菓子四種

折櫃物貳拾合

魚味四合 海草^草四合 菓子四合 洗米六合

菊紙貳合

日供

朔日 十一日 廿一日

一魚味三種 于物壹種 小戴

神供

神酒

野菜

但朔日野菜ナレハ
一日菓子ト替ル

十六日

廿八日ニハ魚味貳種トナル其前

同上

御平日 日供

一魚味一種 于物一種 神供 神酒

一洗米一ヶ月ニ兩度程調進候

一昆布一ヶ月ニ三拾本三ヶ月度ニ調進候

正月元日別御供

菱葩

伊勢海老

数子

塩小鯛

塩鰯

塩貝

ケタ
イリコ

長芋

檣栗

小栗檣栗貳合

密料

平荒布

ホタワラトコロ

串柿

橙

ホナカ 栢

四方御鏡餅月ノ餅

中汲酒 黒米壹升

同二日ヨリ同十五日迄 菱葩 伊勢海老斗

節分

菱葩 数ノ子 伊勢海老

ツグミ

大豆

正月七日

薺

三月三日

赤鳥ノ子 桃花柳枝

五月五日 粽 艾葉菖蒲

六月十六日 鶉餅 小戴 青箆詰 魚味三種

七月七日 素麵 梶葉

八月一日 藤ノ花餅

九月九日 赤鳥ノ子 菊花 赤餅

十月亥ノ日 歌賃 菊花 二ノ亥 歌賃 楓

三月三日 五月五日 七月七日 九月九日 二ハ魚貳

尾ツ、調進

正五九月 御内儀 参拜ノ日 神供

鶴ノ子餅貳百 小戴 但三正月十五日迄ハ小戴之代 苺葩

十二月十三日

救ノ子 ガマメ

當正月三日

賢所御親祭御幣物品及御問合候處云々御報承
候

御太刀

一振

馬

一匹

黄金一枚
代ニ拾六兩二分

右御太刀真、御太刀ニ候哉又ハ是ニテ鑄太刀
ニ候哉否御問合及ヒ候自然ト御鑄太刀ニ候ハ
明春ヨリ馬代被止

皇靈御同様之御太刀斗御奉納ニ相成度候間其
御用意有之度候且是迄真、太刀ト馬代ト御奉
納ニ候ハ、明春ヨリ前文之通御太刀斗御奉納
御用意有之度候仍テ御掛合申入候也

辛未
十二月廿七日

神祇省

宮内省

御中

當三月三日

賢所御親祭御幣物云々尚又御掛合之趣致承知
候御太刀者鑄太刀ニ候就テハ明春ヨリ馬代被
止

皇靈御同様之節御太刀斗御奉納ニ相成度御申
越ニ者候得共真、御太刀年々供進相成候ハ、
次第ニ数添無際限候事ニ御座候間明春ヨリハ

紅白絹

貳匹

右之通御奉納相成候テハ如何可有之候様何モ御答ヲ此段申入候至急御回答有之度候也

辛未
十二月廿七日

宮内省

神祇省

御中

正月三日

賢所 御親祭御奉納馬代被止皇靈御同様真太
刀御奉納之儀申入候處右ニテハ次第ニ敷添無

限事ニ候間明春ヨリハ紅白ニ足御奉納相成度
御掛合ニ候一共右ハ不可然儀ト存候間外同様
真ノ御太刀御奉納相成度仍テ御報申入候也

辛未
十二月廿七日

神祇省

宮内省

御中

明治四辛未年正月一日ヨリ
至十二月三十日

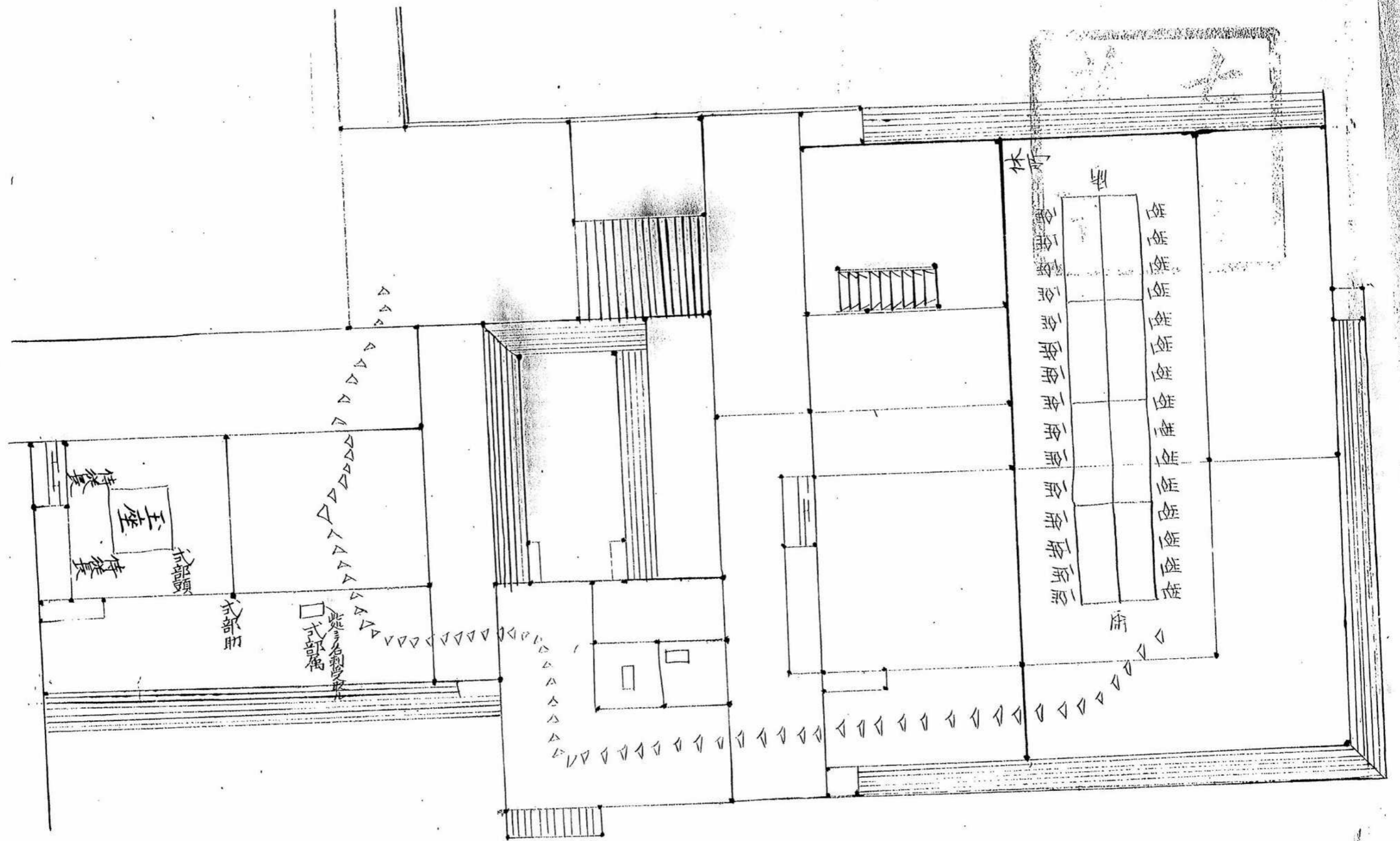
御用日記

左院

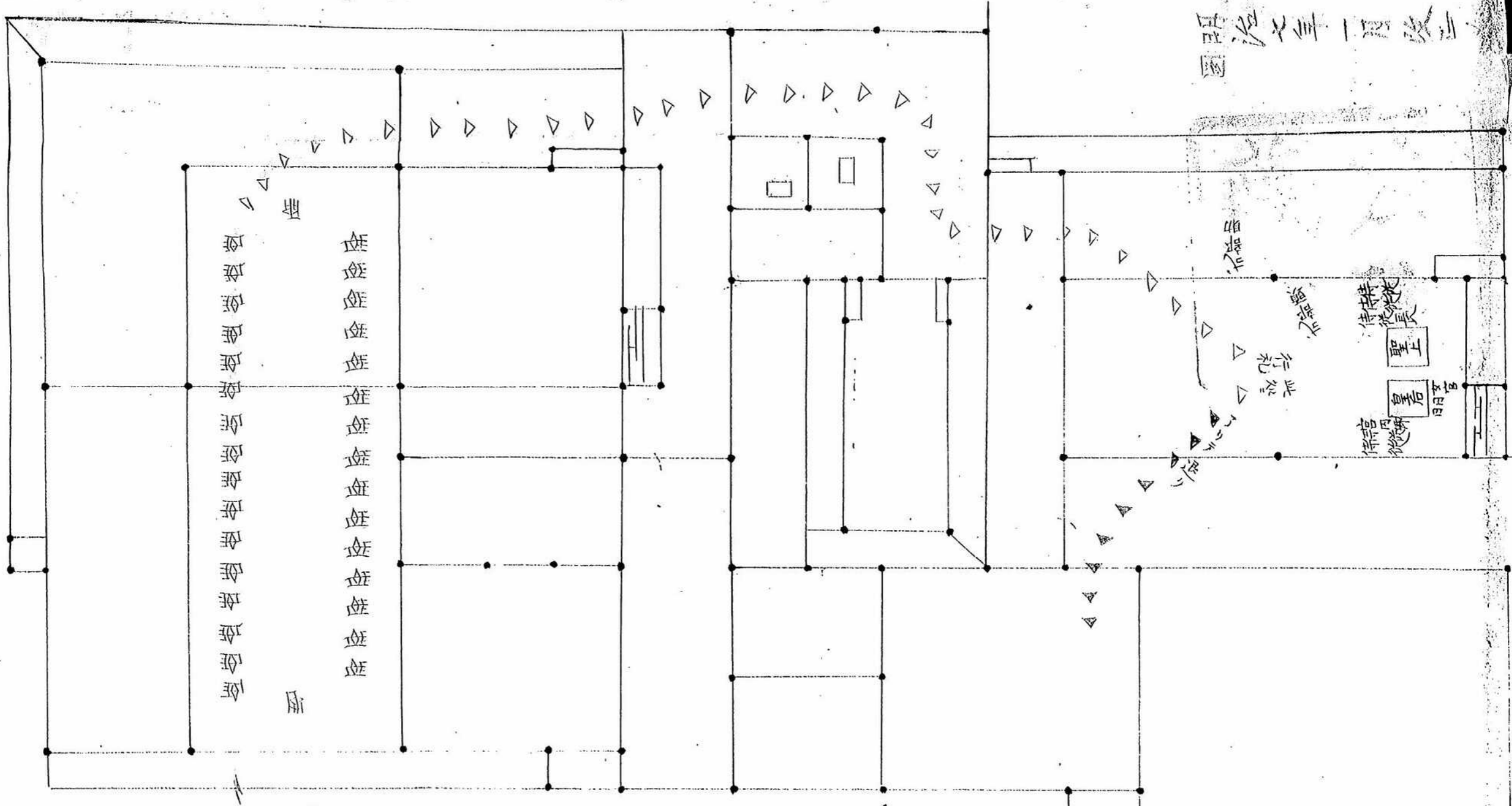
宮内省記録沿革

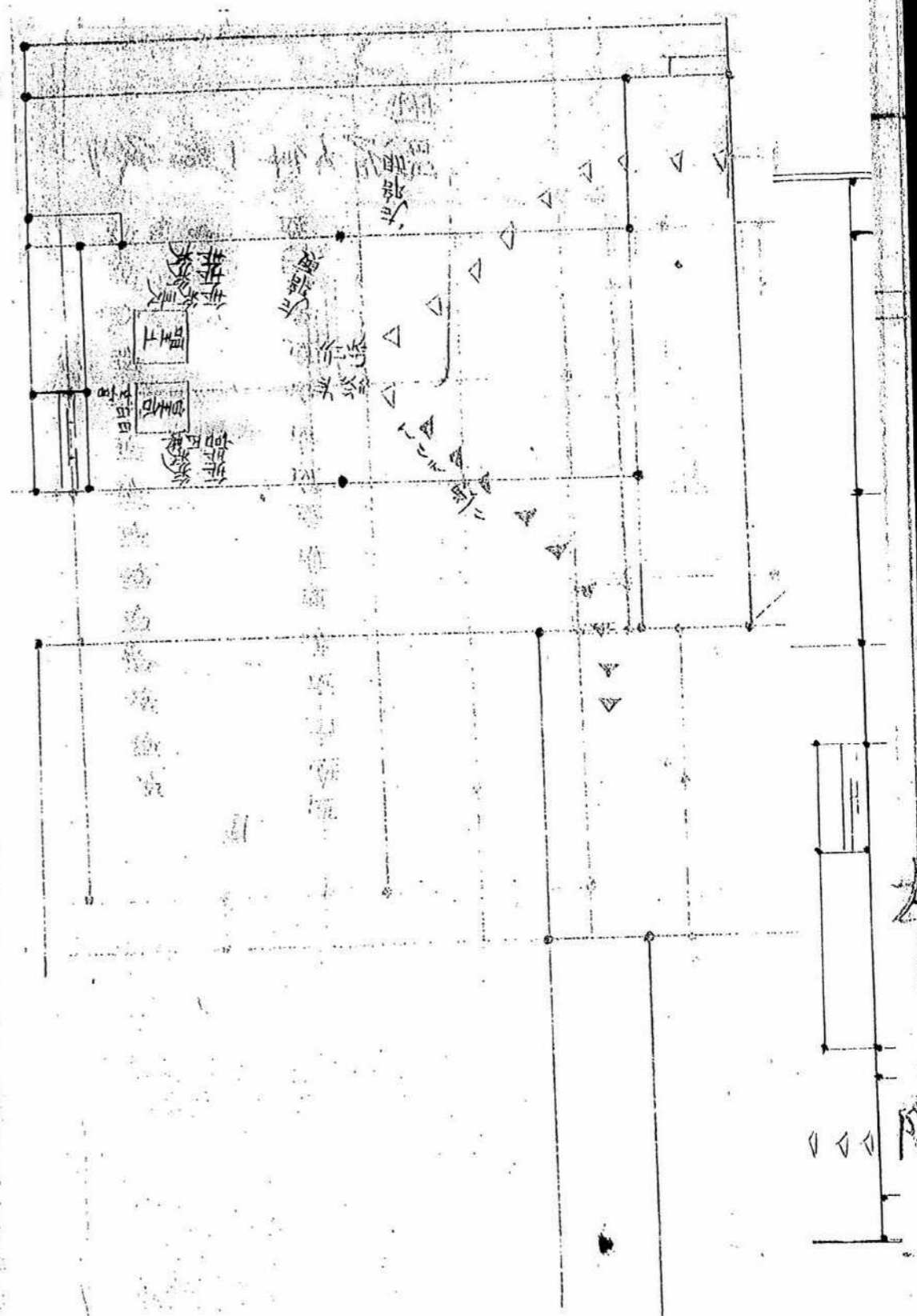
宮内省

四



三卷一冊之圖
圖





左

御用日記

明治四年未歲正月一日ヨリ
至十二月三十日

正月一日

有仕
諸清生

一 四方拜臨期出 御不被為在候事

一 朝拜外越出 御于大廣間親王并諸官省府藩

縣勅任官及非役華族 朝拜辰越諸官并府藩

縣奏任之輩 朝拜畢入 御誥省錄已上侍從

典醫次侍從内膳權正等相誥候事

一 朝拜之輩一同 中官二年始祝詞申出候事

一 諸官勅任并侍從次侍從 御末廣一握宛賜候

事

同九日

一 歌御會始

讀師

醍醐侍從

講師

三條西侍從

講頌

五辻少辨

講頌之人員

登声

綾小路侍從

雅樂局ヨリ伺

ニ付取消ニ相
成候事

大原從二位

同 從四位

右伺之處可為其分被 仰出候事

同十日

一 今日御來馬始不被為在候事

一來廿四日歌御會始講頌

登声

大原從二位

五辻少辨

綾小路侍從

大原從四位

東園侍從

右一紙雅樂局四辻助被相伺之處伺之通被

仰出候事

同廿四日

一今日御會始已辛尅小御所出 御午尅訖入 御

講師 但諸侍從次侍從當省不誥
出座納言參議卿辨官

講師 三條西侍從

講頌 登声 大原從四位

五辻 少辨

綾小路侍從

東園 侍從

大原從四位

九月十七日

九月十七日

皇太神宮 御遙拜次第 並賢所御祭典次第

本日第七字神祇省式部寮宮内省各出仕

第八字參議諸省卿神祇輔式部頭着坐 御拜所殿
上南上西

面

同刻諸省輔勅任官等各着坐 庭上
南上東面

次 出御太政大臣前行

次 御拜

其儀太政大臣御後 = 侍 = 參議諸省卿重行列

侍神祇輔式部頭便所 = 候 =

次便殿 還御御服所南ノ間

次太政大臣參議諸省卿輔勅任官拜禮先是還御間拜禮

ノ座ヲ設ク

其儀庭上西方ニ向ヒ大臣以下上北重行再拜畢

テ昇殿ス

次入御

御祭典

先太政大臣以下勅任官昇殿便宜ノ所ニ候ス上北

西面

次便殿 出御

次神饌ヲ供ス

其儀太政大臣外陣巽角ニ着キ神祇輔良角簀

子ニ着リ此間神樂歌ヲ奏ス歌聲起テ大掌典

以下神饌ヲ傳供ス

御手代從一位 忠能神前ニ侍レ之ヲ奉ス神饌既ニ

畢ル式部頭奏聞ス

次内陣 着御參議諸省卿進テ神殿ニ昇ル各着

坐簀子南 上北面

次太政大臣祝詞ヲ奏ス

御手代ニ授ク

次 御持御玉串ヲ奉リ玉ヲ神祇輔之ヲ御手代

之ヲ獻ス

次御鈴式ノ如シ

次便殿 還御

次太政大臣以下勅任官并禮先是并禮ノ座ヲ設ク

其儀各庭上ニ下リ神殿ニ向ヒ大臣以下西上

行再并畢テ本座ニ復ス

次神饌ヲ撤ス儀初ノ如シ

次 入御

次各退下

一今日神宮御遙拜 内侍所御祭典也依之九時

出 御先 神宮御遙拜訖便殿ニ入御次

内侍所供神饌次 同所 御拜了同殿ニ入御

次撤神饌次内ノ方ニ入御 但御玉串一本 賢所ニ被供

諸大臣參議諸省卿輔式部察當省等候之

御劍 堀川侍從

御笏 米田侍從

御裾 勘々由小路侍從

御挿鞋 石山次侍從

御服 堀川侍從 裏松侍從

左 宗

御手水 御侍 甚々由小路侍從 御手長 高城次侍從

十一月十五日

八時出御

今日節折并大被於

賢所前庭被行依之五字御服間出

御如六月大被畢而入

御次賜齋服輩受大被畢

御劍 勘々由小路侍從

御服 綾小路侍從

御手水 富小路侍從 堤侍從

所役 堀川侍從 五條侍從

高城侍從 河野侍從

十一月十九日

今日豐明節會十二時非役華族奉仕

二時過出 御次太政大臣 宣命ヲ宣ル群臣

磬折次白酒黒酒ヲ供次賜臣下次供御膳臣下

賜居了中山從一位天氣ヲ候ヲ御著下臣下

應之次國拙奏悠紀主基兩國ノ風俗ヲ奏之次

又米舞次舞樂 万歳大平了入 御四時前

一伺天氣蘇在以別帳言上ノ了

十二月廿五日

一今日

孝明天皇御正辰御祭典於賢所被行六時神祇省當省式部察着座次開御扉供神饌奏神樂歌次祝詞了閉御扉撤神饌奏樂歌八時訖同上朝御祭典無異式部頭言上以内豎奏聞候事

一十一時諸官省勅任官着座次便殿出御開御扉供神饌御幣物次御拜御玉串奉給先是太政大臣祝詞ヲ奏ス了便殿還御開御扉撤神饌

如朝了入御十二時過

御服 醍醐侍從 東園侍從

御劔 北條侍從

御裾 米田侍從

御手水御倍膳 石山侍從 高島侍從

御笏 勘由小路侍從

一十二時 皇后宮於便殿御拜女官從之以女官御玉串ヲ靈前ニ奉給

一六字御燈ヲ供シ庭燎神祇省式部察着座便殿

出御開御扉供神饌御神樂入御六時

十二月廿五日

一今日

此名子
夕念
高以元

孝明天皇御正辰御祭典於賢所被行六時神
祇省當省式部寮着座次開御扉供神饌奏神樂
歌次祝詞了開御扉撤神饌奏樂歌八時訖
同上朝御祭典無異式部頭言上以内豎奏聞候
事

一十一時諸官省勅任官着座次便殿出 御開御
扉供神饌御幣物次御拜御玉串奉給先是太政
大臣祝詞ヲ奏ス了便殿還 御開御扉撤神饌

如朝了入 御十二時過

御服 醍醐侍從 東園侍從

御劍 北條侍從

御裾 米田侍從

御手水御倍膳 石山侍從 高島侍從

御笏 勘ケ由小路侍從

一十二時 皇后宮於便殿御拜女官從之以女官

御玉串ヲ靈前ニ奉給

一六字御燈ヲ供シ庭燎神祇省式部寮着座便殿

出 御開御扉供神饌御神樂入 御六時

撤神饌開御菲如朝昼

十字四分御神樂盆異言上并神枝殿上木可計
頭被附以内盛披露候事

本

附

本

附